

2005年10月27日 朝刊 [東京・首都圏経済] 35面

街全体が 一つの書店

神田神保町の190店が連携

める本が互いの店のどの売り場にあるかが即座に検索できる単品管理システムを構築した。

書泉グランデなどを運営する書泉（酒井ミチ社長）

とも、近く在庫システムを統合する。自分の店に客の求める本がなければ、在庫のある提携先を紹介して、

神保町エリアから来店客を逃がさない戦略だ。資本系



地域全体で一千万冊の本があるといわれる（神田神保町の三省堂書店）

庫と取扱店が検索できるようになる。

神保町で営業している書店は新刊書で約三十、古書関連で約百六十。延べ一千万冊の本が店頭や倉庫にあるといわれる半面、購買客の「欲しい本がどの店にあるかわからない」という声は絶えない。他の地域で大型書店が相次ぎオープンするなか、書店側にも客の流出への危機感が高まっている。

新刊書店と古書店はこれまでも「神保町ブックフェスティバル」などのイベントで協力してきたが、地域振興を旗印に、さらに一步進んだ連携に踏み切る。

新刊書店と古書店はこれまた「神保町ブックフェスティバル」などのイベントで協力してきたが、地域振興を旗印に、さらに一步進んだ連携に踏み切る。

来店客を地域ぐるみで囲い込め——。日本最大の本の街、東京・神田神保町で大小百九十あまりの新刊書店と古書店が本格的な連携に乗り出す。三省堂書店（亀井忠雄社長）など新刊書販売の大手三社が在庫情報の組みづくりが地域ぐるみで必要だ」と語るのは三省堂書店企画事業部の児玉好史の消費者を落胆させない仕組みで、三省堂書店（亀井忠雄社長）などが新刊書販売の大手三社が在庫情報の相互開示で提携。これを足がかりに地域の古書店との連携も深め、来春からは書店街にある新刊書、古書す

—同社は岩波ブックセンターを経営する信山社（柴田信社長）と提携し、客の求

目当ての本がある。本好きの消費者を落胆させない仕組みづくりが地域ぐるみで必要だ」と語るのは三省堂書店企画事業部の児玉好史

「神保町に来れば、必ず『神保町に来れば、必ず』で検索できる総合サービス」の提供をめざす。

「神保町に来れば、必ず

全店の在庫検索可能に

「ブックタウン じんばう」で地域の在庫データを公開（<http://jimbou.info/>）している。

とも手を結ぶ。双方のサービスが合体す

同サイトは特定非営利活動法人（NPO法人）の連合（高野明彦代表）が想出版（高野明彦代表）がをパソコンに入力するだけ

神田古書店連盟の情報提供を得て、今月からネット上とんどの新刊書、古書の在庫と取扱店が検索できるようになる。

日本経済新聞